

議会活性化特別委員会

【日時】 令和7年8月7日（木）新幹線・観光誘客特別委員会終了後開議

【場所】 加賀市役所 別館 301 会議室

- 1 今任期の委員会で取り組む議会改革に関する検討項目の取組結果について

資料 1

- 2 委員会のまとめについて

資料 2、3

◎今任期の委員会での取組結果について

資料1

区分	項目	内容	取組結果	
前任期からの申し送り	①広報媒体の有効活用について	・議会だよりのさらなる充実化に努め、読み応えのある記事づくりに取り組むこと。 ・ホームページ、フェイスブック、Instagram、YouTubeやケーブルテレビなど、さまざまな広報媒体を連動させ、効果的な議会情報の発信に取り組むこと。	継続	・毎号、広報部会が中心となり、市民により興味を持ってもらえる広報誌となるよう協議、検討を行った。 ・YouTubeでは定例会ごとに予告動画を作成し、市民に向け配信した。 ・議会報告会「議会おでかけトーク」や中学生議会の開催についてはケーブルテレビで告知の文字放送を実施するなど行った。
	②議員間討議の実施について	・常任委員会を中心に実施し、市政に関する重要な課題等について、議員間での討議を活発に行うことにより、論点を明確にし、さらに議論を深めるとともに、必要に応じて政策提案につなげること。	継続	・今後も継続して検討していくこととする。
	③意見交換会等の積極的開催について	・グループトーク方式による議会報告会「議会おでかけトーク」を実施し、アンケート結果を参考にしながら、開催時期や開催地区（場所）当の検討に加え、翌年度の開催に向け実施方法の改善等を検討すること。 ・子育て世帯を対象とした議会アンケートの集計・分析を行い、市民の議会に対する評価等を踏まえ、これまでの議会での取組結果を検証し、今後の議会活性化・議会運営に生	継続	・議会報告会「議会おでかけトーク」では令和6年度と令和7年度の2年をかけて市内21地区で実施したが、アンケート結果を踏まえ、改善等の検討項目の洗い出しを行った。 ・令和6年度9月に実施した議会アンケート調査の結果では、「意見交換会や意向調査（アンケート）」

		かしていくこと。		を行い、市民の意向を把握・反映していくこと」が一番多かったことを踏まえ、意見交換会等の実施について今後も継続して検討していくこととする。
	④若者や女性、会社員などの多様な人材の市議会への参画と活性化に関する検討について	・全国の地方議会において、議員の成り手不足が課題となっている。この問題の解決には多様な人材の市議会への参画を促す対策が必要である。加賀市議会としては、加賀市議会政治倫理条例、加賀市議会委員会条例及び加賀市議会会議規則の改正を行ったが、引き続き、本委員会において具体策の検討を行っていただきたい。	継続	・今後も継続して検討していくこととする。
	⑤中学生議員による議会の開催について	・中学生議員からは、「こういった機会があれば今後もぜひ参加したい」等のご意見をいただき、また、議員による検証結果では「一人2問ずつあってもよい」等の意見をいただいている。ただ、先生からは「県の大会、意見発表、通知表渡しと保護者との懇談のときであったので忙しかった」等のご意見をいただいております。次の開催については、質問数や開催前に自己紹介などを行い親睦を深める場を設けるなどし、あわせて開催時期についても学校の行事を踏まえて検討していくこと。	継続	・今後も継続して検討していくこととする。

議会活性化特別委員会 報告

1. 委員構成

委員長：上田 朋和

副委員長：南出 貞子

委員：上野 清隆、若林 高、荒谷 啓一、一色 眞一、東野 真樹、中川 敬雄、山口 忠志

2. 調査目的

議会改革、広報・広聴に関する調査研究

3. 調査期間

令和6年9月25日～令和7年9月3日

4. 委員会等開催状況

	委員会	行政視察
令和6年	3回	1回
令和7年	6回	0回
合計	9回	1回

5. 協議事項件数

件（令和6年：6件、令和7年：15件）

6. 行政視察

◆12月19日 静岡県掛川市議会

「広報・議会報告会について」

◆12月20日 神奈川県開成町

「議会だより、ホームページについて」

7. 主な取組事項

① 大聖寺実業高等学校との意見交換会

若者の市政及び議会への関心度を高める取組の一つとして、大聖寺実業高等学校との意見交換会を開催した。生徒からは「加賀市の活性化」、「加賀市の防災対策」、「加賀市の福祉政策」をテーマに、たくさんの意見、提案があったことから、3月定例会での質問として取り上げた。

② 議会報告会「議会おでかけトーク」の実施

今年度も昨年度に引き続き、実施要綱に基づき市内11会場（まちづくり単位）で開催した。当日は4つのテーマを説明した後、テーブルごとに一つテーマを選んでいただき、グループトーク方式による意見交換を行った。グループトークは、各グループの議員が進行役を努め



た。

参加者へのアンケートの結果では、グループトーク方式に対し、「とても気軽に意見・考えを発言することができた」、「比較的気軽に意見・考えを発言することができた」と回答した方が8割を超えており、参加者からは活発なご意見・ご提案をいただくことができた。

今後は、アンケート結果などを参考にしながら、令和7年度に生かしていく必要があると思われる。



③ 中学生議会の開催

加賀市の未来を担う中学生に、選挙権年齢の引き下げにより身近なものとなった議会や市政への理解と関心を高めてもらうとともに、市政に対する要望や質問を発表する機会を提供し、中学生の視点からの意見を今後の市政運営に反映させていくことを目的として、8月5日に中学生議会を開催した。

当日、中学生議長の進行により、11人の中学生議員が市政や学校生活などに対し、若い感性や視点から市当局に質問した。

中学生議員へのアンケートの結果では、「自分で質問を考えることは難しかったが、自分たちの町や市、生活をより良くするために考えられてよかった」、「議会に参加するという普段は経験できない貴重な経験ができてよかった」などのご意見をいただいた。



④ 議会改革度調査2024ランキング全国10位

早稲田大学デモクラシー創造研究所（旧早稲田大学マニフェスト研究所）が、毎年、全国の県市区町村議会へ議会改革に関するアンケート「地域経営のための議会改革度調査」を実施しており、地域経営のための議会改革度調査2024において、加賀市議会が全国10位という評価をいただいた。

調査項目に対する回答については、委員会で回答案について協議し、ランキング向上に資するさらなる議会改革の取組が実施できるかどうかについて検討した上で回答した。

8. 調査の結果

本委員会では、この間、9回の会議を開き、議会活性化に向けた議論や調査を重ね、着実に実行してきた。

早稲田大学デモクラシー創造研究所の地域経営のための議会改革度調査において、2016年、2017年に過去最高の4位という評価をいただいて以来、年々順位が下降ぎみであったが、2022年には過去最高と並ぶ4位、2023年では5位、そして2024年は10位という評価をいただくことができた。

これは、これまで議会活性化に取り組んできた積み重ねが全国的に評価されたものであり、引き続き、市民からも高い評価を得られるよう、議会活性化に向けた取り組みを続けていくことが重要であると考えます。

よって、次期委員会でも本委員会でもまとめた申し送り事項等を踏まえ、議会基本条例の趣旨に則り、加賀市議会の活性化に向けたより一層の取組を期待する。

令和7年8月7日

加賀市議会

議長 今津 和喜夫 様

議会活性化特別委員会

委員長 上 田 朋 和

議会活性化特別委員会の報告について(最終報告書)

議会活性化特別委員会では、約1年に渡り、議会活性化の取組に関する協議及び検討を行ってまいりました。その間、中学生議会等を実施し、その結果等を議長に報告してきました。

この度、これまで本委員会で行ってきた内容や次期委員会への申し送り事項について取りまとめましたので、報告いたします。

記

1 委員会の取組結果

別紙報告書のとおり。

2 次期への申し送り事項

①広報媒体の有効活用について

本委員会広報部会を中心に、議会だよりのさらなる充実に努め、読み応えのある記事づくりに取り組んでいただきたい。また、ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブ、ケーブルテレビ等、さまざまな広報媒体を連動させ、効果的な議会情報の発信に取り組んでいただきたい。

②議員間討議の実施について

常任委員会を中心に実施し、市政に関する重要な課題等について、議員間での討議を活発に行うことにより、論点を明確にし、更に議論を深めていただくとともに、必要に応じて政策提案等につなげていただきたい。

③意見交換会の積極的開催について

本年度も昨年度に引き続きグルーブトーク方式による議会報告会「議会おでかけトーク」を実施した。翌年度の開催に向け、アンケート結果を参考にしながら、開催時期や開催地区(場所)等の検討に加え、実施方法等の改善についても検討していただきたい。

④若者や女性、会社員などの多様な人材の市議会への参画と活性化に関する検討について

近年、全国の地方議会において、議員の成り手不足が課題となっている。この問題の解決には多様な人材の市議会への参画を促す対策が必要である。加賀市議会としては、加賀市議会政治倫理条例、加賀市議会委員会条例及び加賀市議会会議規則の改正を行ったが、引き続き、本委員会に

において具体策の検討を行っていただきたい。

⑤中学生議員による議会の開催について

令和7年8月5日に中学生議会を開催し、中学生議員からは「自分で質問を考えることは難しかったが、自分たちの町や市、生活をより良くするために考えられてよかった」、「議会に参加するという普段は経験できない貴重な経験ができてよかった」「他の学校の中学生議員の意見も聞くことができてよかった。」などのご意見をいただいた。

先生からは、・・・ **意見集約中です**

教育委員会からは、「学校と連携して行う以上、学校の教育目標や年間計画に一層合致したものとなるようお願いしたい」、「学校側としては、かなり大きな負担感を感じているという声もある」、「この時期は、中学生意見発表会、部活動大会などと重なり、社会科公民で政治・地方自治を学ぶ前の2年生・1年生議員になりがちになるため、この体験を学ぶに生かしきれていない。そのため、教育的効果に疑問がある。今後の提案として、①STEAMプレゼンテーションと議会のコラボし、ここに市議会議員の方々が入り、質問・講評してもらえればありがたい。②中学生と議員の「30年後の加賀市」について本気のトークを行い、予想人口、税収などの資料をもとに、ピンチをチャンスにする話し合いをする。③中学校の社会科公民・地方自治の授業の際出前授業と模擬選挙を行えば、理解が深まる」などのご意見をいただいた。

このような結果を受け、次期についても前向きに中学生議員による議会の開催の検討を行っていただき、開催する場合は、開催時期や進め方などについて再度検討していただきたい。

3 今後の議会活性化に関する取組について

前期委員会の申し送り事項を中心に、広報広聴の充実、開かれた議会の推進等、議会活性化の取組を進めてきた。

早稲田大学デモクラシー創造研究所(旧早稲田大学マニフェスト研究所)の地域経営のための議会改革度調査において、2016年、2017年に過去最高の4位という評価をいただいて以来、2022年は4位、2023年は5位であった。そして今回の2024年では10位という評価をいただくことができた。順位は下がったものの、これまで議会活性化に取り組んできた積み重ねが全国的に評価されたものであり、引き続き、市民からも高い評価を得られるよう、議会活性化に向けた取り組みを続けていくことが重要であるとする。

よって、次期の議会体制においても、議会活性化の委員会を設置し、今期委員会でまとめた申し送り事項を踏まえ、加賀市議会基本条例に掲げた「開かれた議会」、「監視する議会」、「審議する議会」、「政策提案する議会」、「市民が参加する議会」の実現を目指し、加賀市議会の活性化に向けたより一層の取組を期待する。